教師と子ども

—学級で人間相互関係を創造する際の成功と失敗の例—

"The Teacher and The Child"

—Personal interraction in classroom—

Mcgrow-Hill Series in Education 1956

教師が子どもを認容し理解して指導して、子どもに満足な学校経験をさせ、教師と子どもとの関係で有意義な変化が生じたと教師が感じる時に、この本では相互関係が成功したと認められた。従って成功というのは、教師の側の判定にもとづいていた。子どもとの相互関係をよりよいものにしようと努力した教師達のすべてが成功例を示してはいない。ある教師は二年間一人の子どもを相手にしたが、結果が明確でなかった。ある教師は完全に失敗した。それら不明確や失敗の例を示し、その原因が何であるかを考え、現場で類例を作らないようにする緒としたい。

◎D(Danny)とH(Mrs Horton)…不明確例

Dは青い眼で、金髪で、頑強なつくりの少年である。H教師はDの母から彼が一人っ子である事、両親は子どもが学校でうまくゆくように非常に熱心である事を話された。Dは自然科学に特別興味を持っていた。しかしH教師はDの知的好奇心と共に、Dが落ち着きのない子であるという印象を受けた。Dは授業中に椅子を叩いたり、倒したり、勝手におしゃべりをしたり、部屋を出て水を飲みに行ったり、遊びに出て行ったり、何でも自分の好き勝手に行動した。H教師は何度も注意をしたがDは無視した。Dの近くの席の子ども達は席を変えてくれるよう何度も教師に要求した。Dは他人に負けることを非常に嫌い、負けそうになると乱暴な行為を始める。H教師は、そのような時になるべくDの不満を聞いてやろうとし、Dに公平な態度を教えようとした。H教師が遊びに加わっている時には、Dは比較的おとなしかった。

教室に新しいボールがとどいた時、それを使用しようとするH教師の計画に、今までのなわとび遊びをしようとするDの提案は変更を要求された。それが刺激となりDは不平を言いクラスを乱した。H教師も興奮して生徒を叱った。H教師はDの軽はずみな行動がより協力的になるように希望した。その為になるべく多くDと一しょにいようと決心し、週一回だけ放課後ある時間勉強を教える事を通して親しくなろうとした。

Dとの話し合いで、H教師は彼とかなり親しくなった。彼は教師の手伝いをしたり、勉強も熱心にするようになったが、どんな時にDが強烈に爆発するかわからないので心配で

あった。

母との話し合いで家庭の様子を知ることが出来た。父親は大学教授であり、両親はDを教師にしたいので勉強させようと努めている。勉強・ピアノの練習などでDはテレビを見ることも制限されているし、友達ともあまり遊べない。

約二年間で彼は読書や図画などの今までしていなかった活動に参加するようになった。しかし、普通の時の友達との関係はあまり進歩しなかった。H教師はDについて変りなく熱心であったが、彼の存在に不安を感じ続け、Dの敵意が、教師としての彼女の仕事を破壊するのではないかと恐れた。

H教師や他の教師は、Dを受け入れて教室において十分な経験が出来るように援助を与えた。Dの感情のうち敵意などの発散してしまった方が良いものの表現を教師は許可した。教師達は教室で彼に責任を与え、他の子に彼と遊ぶように奨励した。放課後教師とすごす時間は彼にとっては家庭における緊張や制限を避ける時であった。

H教師は多年の経験を持ち、問題児の治療は効果的で成功した例が多い。それにもかかわらず、Dとの関係はうまくゆかなかった。何故これらの教師が彼との関係でいら立ち、混乱させられたか。

多分Dの破壊的行動と闘う能力のなさで説明される。連続の失敗は教師に、役立つ教師としての自信をおびやかし、教師の心に不安を感じさせるに至った。結局自信を失った教師は、Dに対しての十分な態度を示せなくなった。またDを障害児とみなすようになった。

学習能力や友達との協力も向上したが、やはり問題は残っている。

◎C(Carol)とS(Miss Senter)…失敗例

Cは学期が始まった頃は、どんな観点からも問題児ではなかった。はじめて彼が問題行動をしたのは、教室が非常にさわがしい日であった。注意を守らずに騒いだ子は教室の隅に席を移すように決めた。Cは非常に騒いだので数度の警告の後に隅に行くことを強いられた。それ以後CはS教師の指示に従わずに、無理に運動場に連れてゆかれたり、事務室で勉強を強制されたりした。Cの行動は、大声でさわいでS教師に反抗したり、雑音を立てたり、他人の物を取って邪魔したり、乱暴な行為をした。だから友達にのけ者にされてしまいCの好きな友達はいなかった。Cは騒いでS教師に注意された時に、自分が悪いのではなく友達が悪いのだと罰を他人の責任にしてしまう。

Cの行動は荒っぽく破壊的で教師を邪魔する。S教師はCと闘うことは出来ず、すべての努力は失敗した。CはS教師のしつけに挑戦したく反抗したので、S教師は一貫した立場を維持することが不可能であった。即ちCとの関係でS教師は自己を保ち得なかった。Cは反抗を通してS教師の弱さ、無能力や、自分に挑戦する自信のなさを感じ、教師を信頼出来なくなった。もしS教師がCに直接感情を表現したならば、特に彼を受け入れたならば、CはS教師に信頼を示す事が出来たであろう。S教師がCとの関係を通じて確乎たる立場を保ち、彼が制限を破るのを拒否出来ていたならば、CはS教師をもっと強い人物として見たであろうし、学校における制限を知れば、規則を犯したり、教師を無視しなかったであろう。Cは統制されぬ教室環境で非常な不安を感じたにちがいない。

◎N(Ned)とW(Miss Walton)…成功例

最初W教師は、Nの要求を理解出来なかった。W教師は、Nに制限を加えるとNが嫌がるだろうと思い、特別に学校の規則を、少し犯すのを許した。しかしNの行動に破壊的なものが増してきたので、W教師はNと話し合って、彼の行動への不満、そのような行動を続けるならば友達が遊んでくれなくなるだろうと説明して、学校の規則を犯すのを許可したのが間違っていたのであり、Nの為には他人と同様な制限を守るように話した。

Nの学科の勉強は平均以上になったが、まだ社会的関係においてある問題を持っていた。重要視すべき事は、おびやかしのない教室の環境で進歩を続け、成長を導びき続けたことである。

NとW教師の関係は、最初から優れていた。W教師が認めてくれていることを知ってNは教師を信頼した。W教師の存在はNの自信を強め、自分の価値ある事を感ずるのを可能にしNの可能性をより役立てる援助となった。

まとめ

W教師は教室における人間相互関係の成功と類似した強い信頼・受容・子どもと教師間の尊敬を成し遂げた。その他成功した教師は暖かく受け入れる方法で、しっかりした一貫した制限を作ることが出来た。これらの教師は、否定的なものや敵意の感情を、抑圧された感情の解放として表現する事を許した。

子ども達はこれらの感情を一日中とぎれとぎれに、微妙に、薄く表現するので、強い爆発的要求はあまりなかった。子ども達は、自分の感情が正しいのであるという感じを持つのを助けられた。

人間相互関係というのは、表現の自由のある所・非難される恐れなしに自己を表現出来る所・感情が表現出来る所・創造的考えが重要視される所・自己の成長が重要な価値を持つ所での教師と子どもの関係である。

無理に強制されて良い事・社会的に優れた事をするよりも、人間的に精神的に満足な解放感を味わう事を通して成長は自然に起るのである。人間が自由にされた時個々人は創造的になる。教師は子どもを子ども自身が豊富な可能性を発展するのを助ける為に勇気を持たねばならない。(下妻小友幼稚園　福西百合)

幼児の教育　第六十巻　第三号

三月号　©　定価　五十円

昭和三十六年二月二十五日印刷

昭和三十六年三月　一　日発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼発行者　津　守　真

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五
印刷所　凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。